

平成19年度 中間評価調書

機関名 アイヌ民族文化研究センター
 研究責任者 古原敏弘
 研究担当者 小川正人

課題番号	ア文研一般 1901		研究課題名	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究（釧路地方）																										
課題担当者	1人		研究区分	研究	試験	調査																								
共同研究機関 (協力機関)				分析	各種施策等との関連性																									
研究期間及び 所要見込額(千円)	16年度 ~ 20年度	前年度以前 (832 / 832)	当年度 (224 / 224)	翌年度以降 (166 / 166)	全体所要額 (一財 1,222)																									
研究の概要	<p>○研究背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究のニーズ 新聞記事、特に道内各地域の新聞は、その地域の生活文化や住民意識などがより多く反映され、アイヌ史研究の重要な資料群の一つである。地域の新聞記事を、アイヌ史の資料という視点のもとに調査・整理し、かつ適切な解説等を付けて提供することは、アイヌの歴史に関わる基礎的資料の蓄積として重要な意味を持ち、アイヌ史研究の推進に資する。 道が取り組む必要性 アイヌの歴史に対する理解の促進につながるものであるとともに、新聞記事を悉皆的に調査する基礎的作業に重点をおく研究であり、道立の研究機関が行う必要がある。 関係機関等との連携・役割分担 調査にあたっては新聞資料の所蔵機関の協力を得るとともに、他機関が有している既存の調査データ等の集約も図りつつ、調査研究を進める。 これまでの研究成果・知見、外部機関の知見等の活用の方 アイヌ史関係記事は、これまでも全道紙やサハリン（樺太）の新聞について数点公刊されている。しかし、これらには、記事が持つ意義が解説させられていないものや、プライバシーに抵触する記事をそのまま掲載しているなど取扱い上の注意がなされていないものがみられる。本課題では、既刊の目録を参考にしつつ、かつ、このような問題点を踏まえ、各地域発行の新聞を体系的に調査し、その成果を蓄積していく。 <p>○研究目的 戦前に北海道の各地で発行された新聞に掲載されているアイヌ関係記事を調査・収集し、その内容を整理・分析することにより、近代アイヌ史の基礎的資料の一つとして整備し、各地域のアイヌの歴史を明らかにする。</p> <p>○研究内容 道内の地域発行新聞におけるアイヌ関係記事の調査・収集・分析を行う。 対象地域はアイヌ史上の位置や資料の残存状況、これまでの調査の蓄積などを踏まえ、体系的な成果の蓄積を意識して設定する。前回(平成13~15年度研究課題)は、近代を通じて統計上アイヌの人口がもっとも多い胆振・日高地方について調査を行い、今回は、統計上の人口が比較的多く、かつ新聞記事資料の残存状況が良好である釧路地方を対象とする。</p>																													
	研究の進捗状況	<p>○直近の研究課題評価における総合評価意見及びそれに対する取り組みの状況（直近評価に 対する対応の適切性）</p> <p>総合評価意見：平成17年度中間評価「地域新聞の紙面調査と検討を通じてアプローチする有用な研究であり、今後一定の研究成果が期待できることから、継続して取り組んでいただきたい」 対応：引き続き、成果のとりまとめに向けた調査を行っているほか、これまでの研究課題とその成果を踏まえ、体系的・継続的な成果の蓄積と提供のあり方について検討していく。（他に調査すべき地域の検討、総合的なデータベースのあり方の検討等）</p> <p>○研究開始後の事情変更の有無及び対応の状況（状況変化への対応の適切性） 事情の変更はない。</p> <p>○年次別目標(事前評価)とそれに対応する実績(進捗度・目標達成度)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>主な目標(項目)事前評価[年次]</th> <th>対応する実績等</th> <th>達成度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>『北東日報』及び『釧路新聞』の関係記事調査 [平成16~18年度]</td> <td>釧路地方の地域紙の中でもっともまとまって残存を確認できる『北東日報』(1901年創刊、同年『釧路新聞』と改題。1941年まで存続)について、毎年度10年分の紙面を順次悉皆調査し、関係記事の収集とその整理・分析を行った。</td> <td>予定どおり進捗した。</td> </tr> <tr> <td>『釧路新聞』の関係記事調査 [平成19年度]</td> <td>1940年分までの調査を予定。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>『釧路新聞』の関係記事調査及び補足調査並びに他の釧路地域発行新聞の記事調査と調査全体のとりまとめ [平成20年度]</td> <td>『釧路新聞』の関係記事及び補足調査を行うとともに、同紙以外の釧路地方発行紙の紙面の調査を行う。 平成16年度からの全体の調査結果として、収集した記事の総目録を作成し、主要記事を翻刻して解説を付ける。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						主な目標(項目)事前評価[年次]	対応する実績等	達成度	『北東日報』及び『釧路新聞』の関係記事調査 [平成16~18年度]	釧路地方の地域紙の中でもっともまとまって残存を確認できる『北東日報』(1901年創刊、同年『釧路新聞』と改題。1941年まで存続)について、毎年度10年分の紙面を順次悉皆調査し、関係記事の収集とその整理・分析を行った。	予定どおり進捗した。	『釧路新聞』の関係記事調査 [平成19年度]	1940年分までの調査を予定。		『釧路新聞』の関係記事調査及び補足調査並びに他の釧路地域発行新聞の記事調査と調査全体のとりまとめ [平成20年度]	『釧路新聞』の関係記事及び補足調査を行うとともに、同紙以外の釧路地方発行紙の紙面の調査を行う。 平成16年度からの全体の調査結果として、収集した記事の総目録を作成し、主要記事を翻刻して解説を付ける。												
主な目標(項目)事前評価[年次]	対応する実績等	達成度																												
『北東日報』及び『釧路新聞』の関係記事調査 [平成16~18年度]	釧路地方の地域紙の中でもっともまとまって残存を確認できる『北東日報』(1901年創刊、同年『釧路新聞』と改題。1941年まで存続)について、毎年度10年分の紙面を順次悉皆調査し、関係記事の収集とその整理・分析を行った。	予定どおり進捗した。																												
『釧路新聞』の関係記事調査 [平成19年度]	1940年分までの調査を予定。																													
『釧路新聞』の関係記事調査及び補足調査並びに他の釧路地域発行新聞の記事調査と調査全体のとりまとめ [平成20年度]	『釧路新聞』の関係記事及び補足調査を行うとともに、同紙以外の釧路地方発行紙の紙面の調査を行う。 平成16年度からの全体の調査結果として、収集した記事の総目録を作成し、主要記事を翻刻して解説を付ける。																													
今後の見直し	<p>○今後の研究の進め方 現在のところ、年次別目標どおりに進捗しており、引き続き計画的に調査研究を進める。</p> <p>○成果の活用策(成果の活用の可能性) 新聞記事の目録を作成し、主要な記事を翻刻し、それらに解説を付けてとりまとめ、公刊する。今回の調査では、従来の研究ではあまり知られていない内容の記事などが明らかになっており、本課題の成果は、アイヌ史の調査研究に関する基礎的な条件整備の一環として、アイヌ史・地域史の研究・学習のための基礎的資料として活用されることが期待できる。また、収集した新聞記事のデータは、当研究センターにおいて蓄積・作成を続けている新聞記事目録に組み込み、引き続きその拡充を図る。将来的には、より網羅的・総合的な目録形態とし、人名やキーワードによる検索機能などを備えたデータベースを作成し、一般に公開・提供する。</p>																													
個別評価	<table border="1"> <tr> <td>直近評価に対する対応の適切性</td> <td>(a)</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>状況変化への対応の適切性</td> <td>(a)</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>進捗度・目標達成度</td> <td>(a)</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td>成果の活用の可能性</td> <td>(a)</td> <td>・</td> <td>b</td> <td>・</td> <td>c</td> </tr> </table>						直近評価に対する対応の適切性	(a)	・	b	・	c	状況変化への対応の適切性	(a)	・	b	・	c	進捗度・目標達成度	(a)	・	b	・	c	成果の活用の可能性	(a)	・	b	・	c
直近評価に対する対応の適切性	(a)	・	b	・	c																									
状況変化への対応の適切性	(a)	・	b	・	c																									
進捗度・目標達成度	(a)	・	b	・	c																									
成果の活用の可能性	(a)	・	b	・	c																									
【自己評価】 (A) B・C	【説明】本研究課題は、すでに30年分の新聞記事を収集するなど当初の計画どおり進捗しており、釧路地方のアイヌ史に関する研究成果が期待できることから、引き続き取り組む必要がある。																													
【総合評価】 A・B・C	【意見】																													

(A)当初(事前評価時点)の計画どおり、または計画以上に取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる
 (B)当初(事前評価時点)の計画に比べ、やや遅れが見られるが、概ね目標は達成しており、今後効率化などの努力により一定の研究成果が見込まれる
 (C)今後の見直し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である
 (a)極めて高い、適切である (b)高い、概ね適切である (c)低い、改善の余地がある